

569 肝メタロチオネインレベルを指標にした癌と炎症の区別

武田厚司、玉野春南、佐藤 哲、岡田昌二（静岡県立大薬）

腫瘍発生に伴い肝の亜鉛とメタロチオネイン（MT）レベルに上昇がみられることに着目した新しい悪性腫瘍の核医学的検出法を実験癌を移植した動物モデルを用いて検討してきた。今回、癌及び炎症誘発動物における肝MTの誘導合成を低亜鉛食及びdexamethasoneを用いて比較検討したところ、低亜鉛食とdexamethasoneはそれぞれ異なる効果を示し、両疾患による肝MTの誘導合成機序に相違があることが明らかになった。肝においてMTと ^{65}Zn レベルはパラレルであり、 ^{65}Zn による肝MTレベルの核医学的測定が両疾患の区別に有効な手段であることも明らかになった。すなわち、肝MTレベルの画像化は悪性腫瘍の早期検出に応用可能であると考えられる。

570 良性非甲状腺疾患における甲状腺ホルモンと腫瘍マーカーとの臨床的検討

加藤義郎、辻野大二郎、和田祐爾、高橋利明、染谷一彦（聖医大三内）

山下あけみ、菊池いづみ、板垣勝義（聖医大放・核）
佐々木康人（東大放）

良性非甲状腺疾患患者964例について血中腫瘍マーカー（CEA, CA19-9, AFP）濃度と甲状腺ホルモン濃度を測定し、両者の関係を検討した。良性非甲状腺疾患をEuthyroid群、Low T₃, T₄ syndrome群に分けて血中腫瘍マーカー濃度を測定すると、序々に高値となる傾向が有意にみられた。また、良性非甲状腺疾患全体で、腫瘍マーカー濃度と甲状腺ホルモン濃度との間で相関をみると、CEA, CA19-9では有意な負の相関がみられた。腫瘍マーカーと甲状腺ホルモンとの間に関連が示唆された。

571 副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）のN端側（1-72）に特異的なIRMA法に関する検討

村上 稔、末廣美津子、尾森春艶、杉本佳則、大谷明宏、仲谷聡子、福地 稔（兵庫医大、核）

副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）は、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症の起因物質である。今回、我々はPTHrPのN端側（1-72）を測定するIRMA法につき検討を行った。本法の測定感度は0.3pmol/lで、再現性、希釈試験および回収試験等に関する基礎的検討成績では、ほぼ満足できる結果が得られた。PTHrP(109-141), PTH(1-84), PTH(44-68)との交差試験では、いずれも本法への影響は認められなかった。健康人における採血条件の検討では、専用採血管での測定値は $2.6 \pm 0.38 \text{ pmol/l}$ 、EDTA採血では 1.9 ± 0.36 、血清では 1.7 ± 0.38 であった。得られた測定値は血清Ca値とのみ相関し、Cr値とは相関が得られなかった。今回の検討から、本法は臨床的に有用と考えられた。

572 血中腫瘍マーカー濃度に影響をおよぼす因子の検討

大浪俊平、黒田環、柴文也、中田肇（産業医大 放）

単クローン抗体を用いたIRMA法による腫瘍マーカーの測定では臨床症状と合致しない偽性高値を示す症例の存在することが指摘されているが、その原因については明確な結論は得られていない。今回血中腫瘍マーカー濃度が偽性高値を示した症例の検討結果を報告する。症例は38才男性。血中CA50値は255U/ml（正常値<35U/ml）、Span-1値378U/ml（正常値<35U/ml）と異常高値。患者血清のSpan-1抗原と標識抗体の結合はマウス血清添加により濃度依存性に抑制され、マウスIgG₁、IgG₂添加では抑制されない。抗マウスIgM抗体の存在については免疫電気泳動法を用いて現在分析中。本因子以外の腫瘍マーカー濃度に影響をおよぼす諸因子についても更に検討中である。

573 異なる抗CA125モノクローナル抗体を用いて測定された血中CA125濃度の不一致

阪原晴海、高坂唯子、富田恵子、服部典子、細野真、小林久隆、白土誠、姚正生、小西淳二（京大、核）

新しく開発されたCA125IIキットを用いて得られた血中CA125濃度の測定値を従来のCA125キットによる測定値と比較した。ほとんどの症例では両者の測定値は良く一致したが、3例の患者で一致しなかった。2例は、CA125キットで高値、CA125IIキットで正常値を示し、これらの患者の血中CA130濃度は正常であった。他の1例は、CA125キットで63U/ml、CA125IIキットで264U/mlであった。また別のCA125高値、CA130正常値の8症例では、全例CA125IIキットによる測定値は正常であった。それぞれのアッセイはCA125分子上の異なる抗原決定基を認識するモノクローナル抗体を用いているため、症例によってはその測定値が一致しないと推定された。

574 糖尿病におけるCEA, CA19-9偽陽性例の臨床的検討

和田祐爾、辻野大二郎、高橋利明、加藤義郎、鈴木敏夫、染谷一彦（聖医大三内）

佐々木康人（東大放）

糖尿病では、血中腫瘍マーカー特にCEA, CA19-9がしばしば偽陽性を示すことが知られている。我々は入院患者でのCEA, CA19-9を測定し、糖尿病と他の良性疾患との臨床的比較検討を行った。CEAの偽陽性率は糖尿病32%、対照良性疾患19%であり、CA19-9の偽陽性率は糖尿病28%、対照良性疾患16%で、いずれも糖尿病で有意に高値（ $P < 0.001$ ）であった。CEA, CA19-9とも対照良性疾患では、加齢に伴う偽陽性の増加傾向を認めたが、糖尿病ではみられなかった。CEA, CA19-9とも血糖のコントロールを示す因子であるFPG, FRA, HbA1cと相関性を認めた。